
スピン・オフ小説 あんたはすごい!

水本爽涼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スピン・オフ小説 あんたはすごい！

【Nコード】

N3211X

【作者名】

水本爽涼

【あらすじ】

時間研究所に登場した塩山満のスピン・オフ小説。

第54回

次の日、会社では何事もなかった。だがこれは私の身に何事もなかったのであり、やはり沼澤氏が私に告げた序章はすでに始まっていたのである。

「課長、大変です！」

「どうしたんだ児島君、血相を変えて？」

昼過ぎまで商用で会社を出ていた児島君が課へ飛び込んできて荒い息を忙しくした。

「わ、わが社の株価が急騰し、ストップ高です！」

「なんだって！ よく分からん…。落ちついて説明してく、くれよっ！」

私も少なからず動転して噛んでいた。

「多毛本舗が新しく発売した『団子たけつ娘』が馬鹿売れで、関連株は軒並み株高に…」

ここまで云って、児島君は係長席に置いた湯呑みの茶を一気に口へと流し込んだ。

「それでっ！！」

私は児島君の手を取り、次の言葉を催促した。

「…特に、原材料を卸す我が社の株が…」

「ストップ高なのかつ！」

「はいっ！ …まさかこんなことになるうとは、予想もしてませんでしたので…」

児島君はようやく荒い息を整え、静かに云い切った。この時も私は、まさかこの現象が玉の霊力だとは露ほども知らなかった。児島君が社へ戻って間もなく、それまで静かだった課内の電話が、ひっきりなしにあちこちで鳴り出した。課員は全員で必死に対応した。俄かに我が社は活況を呈しだした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3211x/>

スピン・オフ小説 あんたはすごい！

2012年1月13日00時58分発行